地域（まち）のこえ広場 No.2

町への思い、地域への思い、議会への思いを届けます。

ずっと元気でいたいから、バスはなくさないで欲しいわね

夫の定年で、横須賀から夫の故郷の佐賀に越して来たのよ。でも、夫は、来てから2年で亡くなっちゃった。

ココは、のんびりしてていいね。近所の人は、お野菜を軒先に置いてくれたり、私がもう派手になったブラウスとかを「野良着にして」ってあげたり。この上の方でみかん作りに来てる人とお喋りしたり、コーヒーを持ってってあげたり。そんな助け合いみたいなことをしてる。

夜は、CDかけてジャズとか近江俊郎や藤山一郎の歌を聴いて眠ってるの。

バスの女性の運転手さんとも仲良しで、週に2、3回くらい佐賀の図書館で本を借りたり、隣のあったかふれあいセンターでコーヒーを飲んで、みんなで歌ったり。帰りは、近くの喫茶店で、早めのお昼にコーヒーとホットケーキかサンドイッチを食べてる。まちの人は、皆が親切で助かってるの。

これからも、趣味の花いじりや出掛けて行って、皆とお喋りや歌って楽しく元気でいたいから、バスはなくさないで欲しいわね。

酒井 泰子さん
(90歳)
熊野浦在住

住んでいる町を楽しみ、足もとの世界から新しい未来を！

7年前、当町に来た当時は、町や砂浜美術館も「なにこれ？」という状態でした。

他にも、地区の催しや消防団活動など住民としての活動の多さに、経験したことのない違和感を覚えました。

この「違和感」という感覚を、居心地の悪さでなく未経験の新たな感覚と捉えることで、毎日を新鮮に過ごせたのではと思っています。難しさも感じながら、ゲーム感覚で日々何かを攻略との感じでした。

あの頃の感覚も徐々に変わっていますが、人口一万人余の小さな町は意外と奥深く、まだまだたくさんのゲームが待ち受けているように思います。

そう考えると、この町がこれまで培ってきた知恵や営み、歴史が魅力として価値化され、町を楽しむ要素になり得るのではないでしょうか。昔、「砂浜しかない町」と言われた町の砂浜が、美術館になったように。

こんな価値観を社会で共有できたら、都会とか田舎とかではなく、住んでいる町を楽しみ、課題に直面した時も足もとの世界から新しい未来を創造することができるのでないかと思います。

塩崎 草太さん
(38歳)
上川口在住

編集後記

暑さ寒さも彼岸まで、とよく言いますが、今年は残暑が厳しく、秋の訪れの遅さを感じました。

町のあちらこちらでは、何年振りかのイベントも多数開催され、賑わいを取り戻しつつあります。

議会では、魅力ある議会づくりのために、地区に伺い、住民の皆様から議会を見て思うこと、定数や報酬のこと、様々なご意見をいただいています。

開かれた議会づくりのためにも、活動が皆さまに届くよう、広報委員一同、心をひとつにして取り組んでまいります。

（濱村 美香）

議会広報常任委員会

委員長　宮川 徳光
副委員長　小松 孝年
委員　澳本 哲也
同　濱村 美香
同　水野 佐知
同　山本 牧夫

黒潮町　議会だより・議事録は、黒潮町ホームページよりご覧になれます。
http://www.town.kuroshio.lg.jp/→黒潮町の紹介→議会→議会だより→バックナンバー

■発行人　高知県黒潮町議会
■編　集　黒潮町議会広報常任委員会
■住　所　高知県幡多郡黒潮町入野 5893　TEL(0880)43-2111(代)・(0880)43-2831(直)
■発行日　令和5年11月1日